

あわくらトイプロジェクト 6年

7月5日（木）



15 陸の豊かさも
守ろう



西栗倉村の木材でおもちゃをつくるプロジェクトのスタートです。現中学2年生が6年生の時にスタートし、4年目になります。西栗倉の木材を使い、ものづくりの「企画」を6年で、「製作」を中学で。木薫の國里さん、舟橋さん、役場と教育委員会のご協力での実現です。

「4 mの板を持ちあげてみて」木の皮がついて水分を含む板の重みを感じます。「村の木を村の中で製材してくれるんだよ」

角材に切った表面を触り、ざらざらを確認した後、1ミリ表面を削って触てみると、「つるつる！」と反応が。



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



「角材の角は90度にする。90.5度だとなぜだめか。家具がゆがんでできあがる。いやじゃない？「直角」が大事なんだよ。」

ぴったり90度の角材を握ってみる。「どう？」「痛い！」と声が上がります。全員握って、大勢が痛いと感じました。

「ぴったり90度だけで終わらないんだよね」と角を落とすトリマーでの作業に続きます。

工程の目的、機材の役割、木の触感など直接体験していきました。

11 住み続けられる
まちづくりを



あわくらトイプロジェクト 6年

7月5日（木）

「木薫では、子ども向けの家具を作ることが多いんだよ」

6年生はとげが刺されば、自分で抜いたり、刺さったら言葉で言える。1才、2才の子は、ただひたすら痛いだけ。すごく皮膚がやわらかい分、とげも刺さりやすい。

12 つくる責任
つかう責任



「だれのために作るのか」子どもたちのこれまでの経験と大きく違う点です。

西栗倉の木が加工される中で変わっていくこ

と。相手意識、使う人を考えた作り手の視点を体感を通して学ぶ時間でした。

6年生は、熱心に見て、反応し、メモを取っていました。



4 質の高い教育を
みんなに



ものづくりから学ぶ。教科で学んだことも使います。村の自然と人から学び、良質な体験を積んでいく。その中で、育みたいのは、「自信 チャレンジ つながり」の力です。